

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	発達支援センターさとしょう（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日	～	令和7年 12月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日	～	令和7年 12月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	母子療育や保護者の送迎を行っているため、保護者との距離が近く、話や相談がしやすい。	母子療育や送迎時に、家庭や園の様子や困っていることはないかなど、一人一人との丁寧な関わりを心がけ、相談しやすい環境づくりを行っている。	座談会や参加日など保護者が参加しやすい工夫を行い、保護者同士のつながりを深めていきたい。
2	町内の事業所や保育所、保健師など関係機関との連携が取りやすい。	地域の親子教室や地域の園に出向いて行き、関係機関との連携を図っている。	引き続き、情報の共有を行い、利用児や保護者の理解を深め、支援の充実を図る。
3	子ども達、保護者に寄り添い、丁寧な支援ができる職員が多い	様々な研修を取り入れ、保護者の気持ちに寄り添うことの大切さ、子どもの発達に合わせた支援の重要性を学んでいる。	今の支援を継続し、保護者や子ども達に寄り添える職員を育成して行く。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	経年による劣化や老朽化が見られる。 人数によっては、療育室が狭い。	経年によるもの。	必要に応じて修繕や掃除をしながら安全の確保や衛生面に留意する。 活動に必要な物以外は置かないようにする。
2	近隣の住民との関わりが少ない。	有事の際など、協力体制を取ることができかが分からない。	近隣住民の方との連携をどう取っていくか検討していく。
3			